

2022 年 11 月 5 日さゆり会講演会

大竹 道茂先生 講演「江戸東京野菜の物語と栽培事例」

東京学芸大学家庭科同窓会 さゆり会

江戸東京野菜の物語

江戸東京・伝統野菜研究会

代表 大竹道茂

江戸東京野菜の取り組み

子ども達に残したい身近な自然

深谷和子先生も執筆

江戸の時代の野菜を知る。

東京都教職員組合栄養部会で講演

江戸東京野菜とは

江戸期から始まる東京の野菜文化を継承するもの

固定種、従来の栽培法等に由来する野菜等

参勤交代で江戸に集まった野菜の種が、江戸土産として地方へ

江戸の大根

練馬大根と江戸の食文化

粋な江戸っ子は白首大根

三河島菜の発見

仙台に伝わった三河島

荒川区の小学校で復活と栽培

伝統小松菜

八代将軍の吉宗が名付けた小松菜

寺島ナス

墨田区立第一寺島小学校開校 130 年記念で復活
地域に広がった寺島ナス

滝野川ゴボウ

滝野川八幡神社の創建 820 年を記念して復活栽培
地元の小学校 3 校でも栽培が始まる。
東京国際フランス学園の子ども達も日本の食文化を学ぶ
農家の収穫

千住ネギ

江戸の根深ネギと関西の葉ネギ
砂村に入植した摂津の農民が、ネギを栽培。

砂村のネギが、千住に伝わる

足立区で命をつなげる授業の実施

私立学校での取り組み

10 数年続くミクニレッスンは、都市大学付属小
フードカルチャーコースと東京女子学院
成蹊小学校は宇宙の話と東京べか菜の栽培

内藤カボチャ

東京都庁に一本近い西新宿小学校が栽培した。
小池都知事に、説明し内藤カボチャをプレゼント
伊藤シェフを招いて、皆で調理実習

「江戸東京野菜」の復活と普及・継承に関する取組

NPO法人 江戸東京野菜コンシェルジュ協会（東京都）

NPO法人 江戸東京野菜コンシェルジュ協会では、平成17（2005）年の法人設立以降、様々な活動を通して、東京の伝統野菜である「江戸東京野菜」の復活・普及に取り組んでいます。

復活に関する取組としては、市場には流通しなくなったものの、地域に残っている「江戸東京野菜」の種を見つけ出し、東京都農林水産振興財団等と協力して栽培試験の実施、農家への栽培の依頼、生産した野菜のマーケティングまでを一括してサポートする活動を行っています。こうした取組により、当初15品目だった「江戸東京野菜」を探し、現在は50品目まで増やすことができました（令和元（2019）年12月現在）。

普及に関する取組としては、大きく分けて三つの取組を行っています。

子供向けには、都内の小学生を対象に、その歴史も交えながら「江戸東京野菜」を栽培する授業を行っています。「江戸東京野菜」の多くは、江戸時代に栽培されていました。毎年その野菜から取れた種を翌年まき、また収穫できるため、種まきから収穫、調理や種の採種までの一連の流れを通して「命がつながっている」ことを学ぶことができる授業となっています。例えば、足立区立栗原北小学校では、4年生が甘みの強い「千住ネギ」を栽培する取組を行っており、収穫したネギは子供たち自ら調理、試食を行います。また、成長したネギの先端にできる「ネギ坊主」から取った種を新4年生に渡す「種の伝達式」を行い、新4年生は伝達された種をプランターにまきます。子供たちは生命をつないでいくことの大切さや、足立区の農業の歴史、食の大切さを学んでいます。

一般の方向けには、「はじめての江戸東京野菜講座」として、「江戸東京野菜」にまつわる歴史やエピソードを通して、江戸時代からの食文化の変遷と、種から種へと命をつなぎ伝えてきた「江戸東京野菜」について学び、実際に野菜を食べる体験も含めた講座を行っています。

さらに、「江戸東京野菜」についての深い知識と東京の農業や食文化を学び、「江戸東京野菜」の普及と地域振興に貢献する人材育成を目的とし、「江戸東京野菜コンシェルジュ育成講座」を毎年開催しています。現在、市場関係者、料理人、教諭、食育関係者を中心に130～140名のコンシェルジュがおり、講座で得た知見を各々の仕事で生かして活動しています。

今後とも、これらの「江戸東京野菜」の復活・普及に関する取組を通して、古くから東京で受け継がれてきた食文化を次世代に伝え残していきたいと考えています。

参勤交代で伝統野菜が誕生

参勤交代の制度が行われていた江戸は急激な人口増加によって野菜が不足しており、各藩の江戸屋敷では国元から持ち込んだ野菜の品種を自給栽培するようになりました。それらのうち、江戸の気候と土壌が栽培に合い、人々の嗜好に適した品種が定着することで江戸の伝統野菜が生まれました。現在でも栽培されている江戸の伝統野菜は昭和中期以降からの品種とあわせて、2011年にJA東京中央会によって「江戸東京野菜」に指定されました。

（出典）国立科学博物館「特別展和食 公式ガイドブックp45」



足立区立栗原北小学校の児童が収穫した「千住ネギ」



収穫した「千住ネギ」を調理する様子

1 東京都内で栽培されており、種苗の大半が自家採取又は、近隣の種苗商により確保されていた江戸時代から昭和40年頃までのいわゆる在来種、又は従来の栽培法等に由来する野菜のこと

文化

「江戸東京野菜」現代に復活

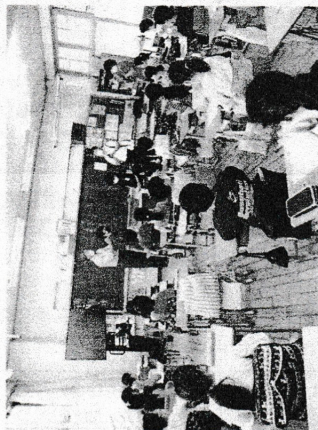
◇早稲田ミョウガ・千住1本ネギ…地域農家や小学校と連携し栽培◇ 大竹 道茂

東京にも「京野菜」のような伝統野菜があるのをご存じだろうか。早稲田ミョウガ、千住1本ネギ、練馬ダイコン、薄野川ゴボウ。どれも江戸から東京に伝わってきた野菜だ。作り手がおらず栽培が途絶えていたものもあったが、地域の農家や小学校などと協力し栽培を復活する活動を30年近く続けてきた。

取り組み始めた当時は15品しかなかったが、今では50もの野菜を「江戸東京野菜」として登録している。伝統野菜は種を自家採取し育てる固定種で、大きさがまちがふ不ぞろいだ。そのため流通に乗りにくく、東京に住む人でも身近に目にする機会は少ないだろう。

生産量は少ないながらも、シェフの三國清三氏経営のレストランをはじめ産地にこだわる飲食店や栽培に取り組む小学校の給食などに登場し、農業文化とともに賞賛に受け継がれている。

江戸時代から続く東京の農業を私が考え始めたきっかけは、東京農業大



6年生から5年生へ種の「贈呈式」。
千住1本ネギの栽培が引き継がれる
(東京都足立区の西伊興小学校)

学を卒業後、1966年に現JA東京中央会に入り、81年に農政担当になったことだ。当時、国の政策は都市の農地の宅地化を推進し、東京の農業に逆風が吹き荒れていた。農地を守る方法を考えていた時、江戸時代から栽培が絶えていたものと知った。これらの野菜や農地を守るのが東京の農業文化を守ることにつながると考え、都内各地の郷土史を調べ始めた。

最初に復活に取り組んだのは早稲田ミョウガ。夏のある日、その畠を食べていると、妻が家の裏に生えていたミョウガを薬味に出してくれ、東京固有のミョウガがあるのではないかと考えた。プロダで「一緒に探しませんか」と発信したものの反応はいまいち。そんな



な時、講演を頼まれた先でその話をしたところ、早稲田大学の副総長を紹介していただけた。

早速訪れると学生を紹介してくれ、捜索隊を結成。ミョウガを見たことがない学生もあり、家から持ってきて見せた。皆で大学周辺の空き地などを探し回り、ついに個人の自宅の庭に生えているのを発見した。捜索に参加していたミョウガ栽培の経験のある農家が栽培してくれて、現在は新宿区立の小学校の給食にも登場している。

復活によって子どもたちの食育に役買っているのが「千住1本ネギ」だ。足立区の小学校3校で4年前に栽培を始め、今は5校で育てている。毎年5年生がネギを育て種を取る。収穫後は調理実習で実際に食べる「嫌いだっけネギが食べられるようになった」という子供もいてうれしい。種は次の5年生に引き継がれる。私や区の農業委員会のメンバーが足を運び育て方を教えるなど、真剣にミョウガを取って聞いてくれて頼もしい。

農協を退職した後も、東京の農家や農業文化を残す活動は、私のライフワークとなっている。東京は周りを千葉や茨城など大産地に囲まれ、生産量ではかなわない。歴史を大事にしてひめながら東京の農業をアピールできたらと思う。農協で長

く農家の側に立つてきたからこそ伝統野菜の取り組みも一緒に盛り上げてもらえると感じている。多くの人に興味を持ってもらえよう10年間毎日欠かさずブログを書いている。コロナ禍で農家を訪ねるのは難しいが、農家や流通業者とのネットワークを生かし日々の

野菜の様子や地域の活動を発信する。取り組みに共感し、江戸東京野菜の応援歌や講演を作ってくれる人もいる。野菜の言の流通経路を巡る毎年のバスツアーや、野菜を食べる会を再び開ける日が待ち遠しい。(おおたけ・みちしげ「江戸東京・伝統野菜研究会代表」)

音楽を創った絵画

音楽プロデューサー 松

「スイスの時計職人」と呼ばれるほど、他に類を見ない精緻かつ独創的な書法で作品を創り上げたフランスの大作曲家モリス・ラヴェル。『亡き王女のためのパヴァーヌ』は、彼が24歳の時、ルーヴル美術館と出合ったベラスケスの絵画「マルガリータ王女」に着想を得て書いたと言われている。『亡き王女』のモデルと言われているのが、17世紀のスペイン・

ベラスケス「マルガリータ王女」



講義室で大竹先生よりご講演をいただき、大学に来校した参加者は講義室で拝聴いたしました。その様子はオンラインで配信し、オンラインで参加された方は、先生のご講演を、配信されたパワポを拝見しながら先生のお話を聞きました。画像も音声もクリアで、オンラインでの参加に不都合なことはありませんでした。



講演会の後、参加者が5つのグループに分かれ、懇親交流をしました。



大学にいらした方は3グループでにわかれ、オンライン参加の方はアウトオブブレイク機能を使って2班に分かれて懇親交流を行い、最後に各班で話題に上った内容を報告してもらいました。



ハイブリッド開催による、リアルな会場とオンライン参加の方々との交流がうまくいくか不安でしたが、それぞれに交流が行われ、さらに全体で共有できた、実りある交流会となりました。

家庭科棟入り口の案内



実行委員の方々の大学での受け付けの様子



ゆり会当日のスケジュールと役割

集 合：2022 年 11 月 5 日（土）11 時 実行委員 208 室集合 役員 602 室集合

時間	実行委員会動向	役員動向	会全体の流れ	準備物
	実行委員集合：208 室 実行委委員控室：208 室 6 階受付	役員集合：602 室 役員控室：208 室	602 室・ZOOM （総会、講演会、交流懇談）	
	S51：〇〇、〇〇、〇〇 S51：〇〇、〇〇 S52：〇〇	〇〇、〇〇、〇〇、〇〇、 〇〇、〇〇、〇〇、		
11：00	・進行の打ち合わせ:208 室 □「さゆり会会場」の張り紙を玄関外に貼る □「さゆり会」自動ドアの前につい立て □1 階 「さゆり会受付 6 階」 □演題 ・受付準備の確認 ・会場セッティング・清掃 ・受付 (S51〇〇、〇〇、〇〇) (S52 〇〇) - 名札 (資料配布) - 募金箱設置 (〇〇、〇〇) ・講師の迎え担当 (S51〇〇) *S51、52 実行委員、役員の受付を先にしてしまう	・会場（602）セッティング（机、椅子、花、PC、zoom など） ・マイクのセット ・パソコンセット (萬羽先生にお願いする)	□「さゆり会会場」の表示 受付準備 会場（602）セッティング 講師のお迎え 来校者受け付け開始 Zoom の設定 総会	マイク PC 養生テープ 名簿 筆記用具 名札 募金箱
12:00	・受け付け開始 ・写真撮影（S52 新井）	・講師の迎え(正門前) (S51 寺井) ・講師の方 パソコン動作確認		
12:30		・総会 開始（役員が進行） - 司会・議長 湯通堂先生 - 議案報告 大竹先生	講演会	
12:50	S51 受付 2 名に縮小 (全員が揃ったら講演	・総会 終了 ・講演会準備 演台のマイク		水 紙コップ

	会へ) ・水コップ準備(佐藤)			
13:00	講演会開始 写真撮影(新井)	・講演会開始(司会 佐藤) ・大竹道茂先生講演		
14:00	講演会終了		・講師退室	
	写真適宜(〇〇)	交流懇談開始(司会〇〇) 1. 開会のことば(司会) zoomグループ分け設定(〇〇) 2. グループ毎の交流懇談 3. グループごとに報告 4. 閉会のことば(司会)	懇談会開始 来校者は5人程度の班に分かれる Zoom 5人程度のグループ分け Zoom グループ分け解除	
14:45まで	名札を各テーブルにおいて退室。)602室の出口でも名札回収(〇〇、〇〇、〇〇)		来校者退出	
15:20頃まで	受付、602室の後片付けと復元(S51とS52) ゴミの廃棄(小金井祭のゴミ処理に従って)			
	来校の役員(可能な方)で、特別会員(元教員)の逝去に伴うさゆり会としての弔意の示し方(内規)の検討(20分ほど)			
片付終了後	S51とS52 合同反省会、引き継ぎ(資料・USB等) 於208室			
15時過ぎ～	S51 実行委員で使用教室等の点検を行う。 ・復元など後始末の状況・掲示物が残っていないか・さゆり会の物品を208室に収納 ・PC、CDデッキ・オーディオケーブル(〇〇)			

2022年度 さゆり会 実行委員会 反省会及び引き継ぎ

日時：2022年11月5日(土) 交流懇談終了後

場所：西3号館(旧家庭科棟)208室

出席者：S52 新井

S51 井元、宮島、寺井、長澤、佐藤

新型コロナの感染拡大があり、3年ぶりのさゆり会の開催になった。今年度は、今までのさゆり会の開催形式とは異なり、ハイブリッド方式(対面とZoom)での開催になった。

1. 案内状作成

- ・総会資料→さゆり会役員
- ・総会・講演会の案内→交流会実行委員

2. 案内状送付

- ・案内状の印刷(総会資料、総会・講演会の案内)今年度は、大学にいる佐藤が行った。
(約1500枚、A3両面印刷、A4両面印刷)
- ・袋詰め 教育学講座事務補佐の北條さんをお願いした。大学のことが分かっているので、袋詰めに使用する部屋の確保、鍵の件も含めて助かった。費用が発生するが、実行委員を集めて行わなくてよいのでこの方式で行った。

大学の同窓会の資料と合わせて袋詰めする関係で大学とのやり取りが必要。

3. 封筒袋詰めのためのラベル印刷

- ・さゆり会役員総務担当が行う。役員との連絡も重要。

4. 大学の同窓会との連絡

- ・さゆり会と大学の同窓会との連絡は、大学の教室主任が担当。
その後、会長、実行委員長に連絡。

5. 実行委員会、事前準備(案内状の印刷等も含む)、前日準備などに使用する大学の各部屋の使用許可を事前に許可を取っておく必要がある。この連絡をこれまでは、実行委員内の大学関係者が行ってきたが、今後は教室主任にお願いする。また、鍵をお借りするので、その受け渡しも確認する必要がある。→今年度は、佐藤が大学にいるので佐藤が事前に大学の先生方に事前に部屋の許可(208, 602室)をお願いした。鍵も佐藤がやりとりした。

6. 受付にFaxとQRコードでの申し込みにした。

- ・Fax申し込み Faxの文字が読み取りにくいものがあった。
- ・Faxで住所変更を申し出る方がいた。
- ・欠席者からもFaxがあった。
- ・QRコードは、大学の先生(副会長)にお願いして作っていただき、すべて連絡もおこなっていただいた。実行委員でできないので、ご迷惑をおかけした。
- ・Faxでの参加者には、手紙で入構証と小金井キャンパスマップを両面印刷して送付。
- ・Fax、Zoomで担当もすぐに返信しなかったので心配して再度連絡いただいた方もいた。
- ・今回初めてZoomでも開催することになったが、申込者が少なく、会長より多方面に再度連絡をとっていただいた。
- ・申し込み追加、およびキャンセルが当日まで続いた。

7. コロナ化で、実行委員が集まって事前に話し合いができなかった。講演者は、3年前に決めていた。「江戸東京野菜」の大竹道茂先生に毎年、お願いして快く引き受けていただいた。実行委員は、講演者を第一に決める必要がある。

8. 今回は、懇親会（食事なし）は、無しのため、参加費は徴収しなかった。ハイブリット形式で行ったため、結局、参加者は少なかったが、準備は2倍になるので当日はいそがしかった。対面で参加する方の参加費は検討する必要がある。

9. 今回懇親会無しのため、交流懇談にした。Zoom 参加者は交流懇談まで残る人が少なくなったため、分けるのをやはり、大学の先生にやっていただいた。グループごとに懇談（期の近いグループごと）後、全体でグループ代表の方に話をしていただいた。

10. 当日準備

- ・ Zoom 設定は、大学の先生（副会長）にすべてやっていただいた。
- ・ その他の会場設営は、役員、実行委員で行った。
- ・ 602室 机はそのまま。受付は廊下（参加者名簿、名札、総会資料、講師資料）
- ・ 西3号館入り口

「さゆり会」

出入口（土曜日のために自動ドアを手動に設定）張り紙をはる。

エレベーター前「受付6階」であることを表示

6階会場入り口にも表示

Zoomであったため、講演者の名前、演題を表示

- ・ PC、パワーポイントの準備、マイクの設置、講演者の水、卓上花（家で咲いたもの）

11. 今後、さゆり会の予算を考えると、当日出席者に寄付を募る予定であったが、受付に箱を置いてだけで、呼びかけをしなかったのが、寄付が集まらなかった。今後検討が必要。

12. さゆり会 参加者 対面 21 名、Zoom 12 名